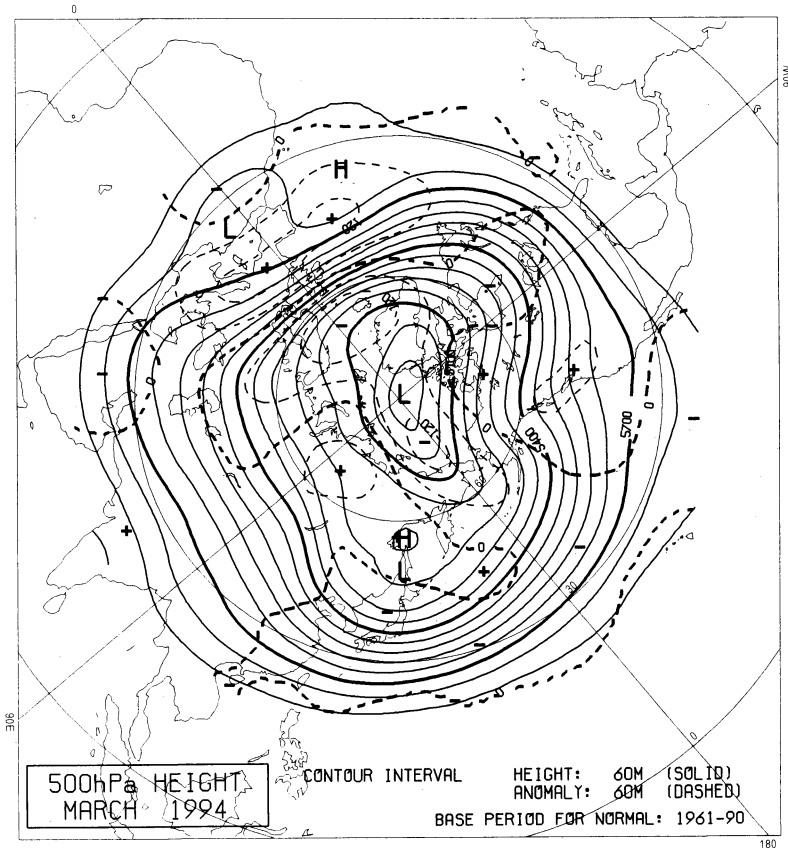


## 1994年3月の大気大循環と世界の天候 月平均 500 hPa 天気図



(破線は平年からの偏差. 単位m)

表 1 1994年3月の気候表

地点名	気温 °C	偏差 °C	DT/SD	降水量 mm	比率 %	降水 階級	地点名	気温 °C	偏差 °C	DT/SD	降水量 mm	比率 %	降水 階級
パリ	9.7	3.1	1.9	43	80	—	カサブランカ	14.5	0.0	0.0	12	25	1
ベルリン	—	—	—	—	—	—	ニオロドサヘル	—	—	—	—	—	—
ローマ	—	—	—	—	—	—	プレトリア	21.2	0.4	0.4	79	100	3
イスタンブール	8.3	0.8	0.5	24	39	1	バンクーバー	7.2	0.9	0.8	103	95	3
モスクワ	-2.9	-0.4	-0.1	61	177	—	ニューオーリンズ	16.0	-0.4	-0.2	122	98	4
オデッサ	4.2	1.5	0.6	10	34	1	セントルイス	8.7	1.7	0.7	32	35	1
ニューデリー	—	—	—	—	—	—	サンフランシスコ	13.3	1.4	1.3	6	8	1
カルカッタ	—	—	—	—	—	—	ニューヨーク	4.8	-0.5	-0.4	159	174	5
ボンベイ	—	—	—	—	—	—	マナウス	—	—	—	—	—	—
ホンコン	17.5	-1.0	-0.8	23	34	2	サンパウロ	—	—	—	—	—	—
チャンチュン	-3.4	-0.6	-0.3	15	139	4	ロサリオ	20.8	0.0	0.0	164	100	3
ペキン	5.6	0.5	0.3	0	0	1	ホノルル	22.9	-0.7	-1.0	81	146	4
シャンハイ	8.4	—	—	34	—	1	タヒチ	28.2	1.2	2.0	321	165	5
バンコク	29.5	0.1	0.1	35	127	—	ダーウィン	28.1	-0.1	-0.1	368	108	4
マニラ	27.4	-0.1	-0.1	—	—	—	キャンベラ	15.5	-2.1	-1.8	21	39	2

## 3月の世界の天候

3月の北半球500 hPa高度天気図は、極渦が平年より強く極付近が負偏差となり、太平洋域の中緯度帯、大西洋域の高緯度帯も負偏差となった。ヨーロッパでは高緯度側で負偏差、中緯度では正偏差が顕著だった。

### ①東南アジアの多雨

東南アジアはほぼ全域で降水量が多く、マレーシアでは平年の2倍を超えたところがあった。インドネシアのジャワ島などでは洪水による被害が報じられた。

### ②ヨーロッパ中部・北部の多雨

### ③ヨーロッパ南西部の高温・少雨

ヨーロッパ中部・北部では低気圧の影響を頻繁に受け多雨となった。月降水量が平年の2倍を超えたところがあった。一方、スペインなどヨーロッパの南西部とアルジェリアなどアフリカの北部は降水量が少なかった。気温はヨーロッパのほぼ全域で平年を上回り、スペインの首都マドリードでは月平均気温13.9°C（平年偏差+3.9°C）となった。

### ④アメリカ合衆国南部・東部の多雨

### ⑤アメリカ合衆国中西部とメキシコ中部の少雨

アメリカ合衆国南部・東部では多雨となり、ワシントンの月降水量は215 mm（平年の2.7倍）に達した。一方、カナダ南部からアメリカ合衆国中西部にかけて

とメキシコ中部では少雨だった。月初めには低気圧による強風と大雪のため、アメリカ合衆国北東部では交通機関などへの被害が伝えられた。気温は、アラスカとカナダ北東部では低温傾向になったほかは高温傾向だった。カナダの中部や西部では平年より4～5°C高いところがあった。

### ⑥アルゼンチン北部の少雨

アルゼンチン南部では多雨だったが、アルゼンチン北部では少雨だった。

### ⑦ポリネシア南部の高温

タヒチなどポリネシア南部では先月に続き高温となった。

### ⑧オーストラリア東部の低温

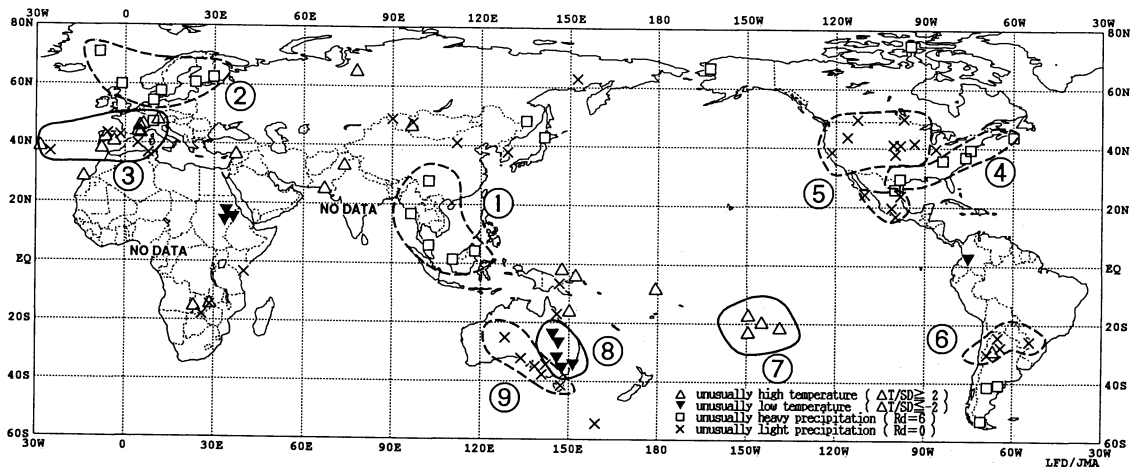
### ⑨オーストラリア中部・南部の少雨

南西部で気温が平年を上回ったほかは低温となり、東部では平年より2～3°C低いところがあった。また、東部の沿岸部を除いて少雨だった。

### ⑩その他

中国から朝鮮半島および日本にかけては、降水量が平年より少なく、かつ低温傾向となった。特に、華南では平年より2°C以上低いところがあった。

（長期予報課 吉松和義）



1994年3月の世界の異常天候分布図

△：高温 ▼：低温

図中の番号は、本文中の番号と対応している。

□：多雨 ×：少雨

1994年3月の気候表の説明。平均値は、1951～1980年のデータに基づくもの。降水階級は五分位値で、0は最小値より小さい場合、6は最大値より大きい場合。500 hPa高度場の平均値は1961～1990年の30年平均値。

## ENSO の現況 (1994年 3月)

エルニーニョ現象の推移の目安となる太平洋東部赤道域の月平均海面水温の年偏差を第1図に示す。1991年春から92年夏まで、同偏差の5か月移動平均値が0.5°Cを超える時期が続いたが、92年秋には年並に戻った。その後、1993年春から再び偏差の5か月移動平均値が0.5°Cを超えたが、同年秋以降は年並で推移し、1994年3月には偏差が0.0°Cとなっている。

一方大気側の推移の目安となる南方振動指数(SOI; タヒチとダーウィンの海面気圧の年偏差の差を規格化したもの。この値が負の時は年より貿易風が弱いことを示す)も海面水温の偏差と同じように推移している。

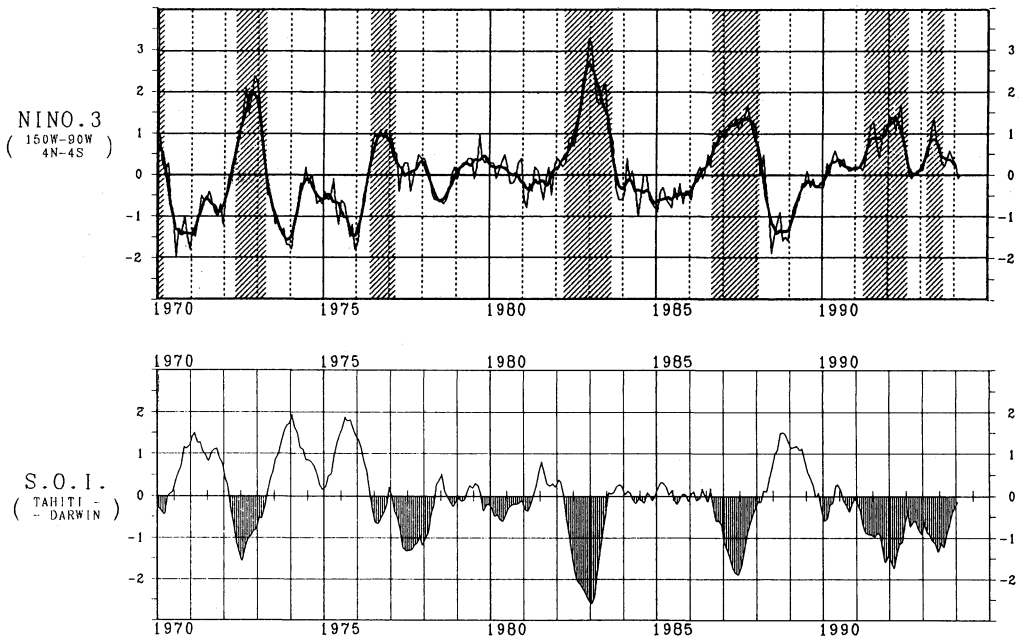
1994年3月の月平均海面水温偏差の分布は第2図の

とおりで、太平洋東部赤道域では、ペルー沖から120°W付近まで負偏差となっている。

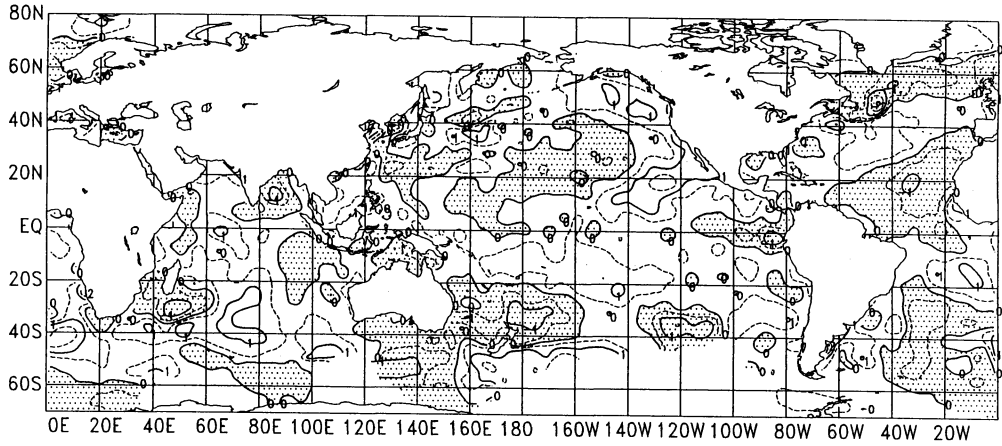
(気象庁海洋気象部海洋課

エルニーニョ監視センター 桜井邦雄  
予報部長期予報課 林 久美)

気象庁では、エルニーニョ現象の状況を、原則として毎月「エルニーニョ監視速報」により発表しています。また、詳細な海況解析図等については、「気象庁海洋月報」により発表しています。詳しくは気象庁海洋気象部海洋課エルニーニョ監視センターにお問合せ下さい。(電話：03-3212-8341内線5134)



第1図 (上)エルニーニョ監視海域(4°N~5°S, 150°W~90°W)の月平均海面水温年偏差の推移(単位:°C)。折線は月平均値、滑らかな太線は5か月移動平均値を示し、正の値は年より高いことを示す(年値は1961~90年の30年平均)。過去のエルニーニョ現象の発生期間に陰影を施してある。  
(下)南方振動指数(SOI; タヒチとダーウィンの海面気圧の年偏差の差を規格化したもの。この値が負の時は年より貿易風が弱いことを示す。)の推移。



第2図 全球月平均海面水温偏差図 (1994年3月)

実線は1°C毎, 破線は0.5°C毎の等値線を示す. 陰影部は平年より低いことを示す(平年値は1961~90年の30年平均).